

# 社会福祉法人生活クラブ2010年度事業計画

## ～ 共通の課題（概要）～

### 1 利用者の権利擁護を徹底します

- ① 昨年度までに確立した生活クラブの理念、基本姿勢、行動基準を普及、徹底します。
- ② 苦情解決第三者委員を、利用者の権利擁護の重要な機能と位置づけ、増員、現場の定期訪問等を行ない、利用者のニーズをより積極的に把握して解決に繋がります。
- ③ 権利擁護の視点を重視した職員研修を強化します。

### 2 経営改革、ケア改革を継続、深化します。

- ① 業務マニュアルを完成させ、ケア水準の向上と標準化を進めるとともに、長期的な視点に立った人材育成を進めます。

- (1) 年度中に、予定したすべての分野の業務マニュアルを完成させます。
- (2) 上野文規氏を迎えての介護理論・技術研修を継続します。
- (3) 本間郁子氏を迎えての風の村ユニットケア改革の仕上げの年とします。
- (4) 新卒の介護職は、長期間の研修を経て配属します。その中心的な基地を特養風の村とします。訪問介護、座学なども含め、介護全般にわたる高齢者介護人材育成の研修体制を構築します。
- (5) 資格取得補助制度、海外研修制度を充実します。
- (6) 事業所の協力を得て、ケア事例集を年度ごとに作成します。ケア記録を蓄積し、職員で共有しケア水準の向上と標準化を目指します。

- ② 経営管理シートを使った目標管理を進めます。
- ③ 基幹システムを入れ替え、現場のニーズに合った効率的なシステムにします。
- ④ 生活クラブ生協と共同で「生活クラブ」のブランディングを進め、戦略的な人材確保を進めます。
- ⑤ 休日の増加等、労働条件のさらなる改善を進めます。

### 3 リスクマネジメント力を強化します

- ① 完成したマニュアルに基づいた業務遂行を内部点検する自主監査制度を発足します。
- ② 事業所ごとに運営委員会を設置し、マルチステークホルダー型運営をめざします。
- ③ 昨年度のUビジョン研究所による法人運営リスク点検の結果を踏まえた改善策を受け、法人全体として対人事故に対するリスクマネジメントに取り組みます。
- ④ 新型インフルエンザへの対応のみならず、将来の鳥インフルエンザ発生も想定した危機管理マニュアルを作成します。
- ⑤ すでに作成している災害対策マニュアルを補強し、マニュアルに基づく訓練を実施します。
- ⑥ 機関会議を見直し、所長会議、経営会議を毎月1回ずつ開催します。現場での情報共有、組織決定の合意レベルを引き上げます。
- ⑦ 職場会議の参加率100%をめざします。

## 4 地域のネットワークを生かし、その人らしい暮らしを継続できるように、地域貢献の活動を積極的に進めます。

- ① 各事業所の事業計画を充実します。
- ② 行政区毎(各市町村)に、生活クラブ版地域福祉活動計画を作成します。また、この作業を通じて、可能なところで社会福祉協議会に加入します。
- ③ 認知症の方ができる限り地域で暮らし続けるためには、地域の人々の理解と応援が必要です。そこで、生活クラブ生協の組合員をはじめ、生活クラブ千葉グループ、地域住民の方々を対象に「認知症講座」を開講します。

## 5 ユニバーサル就労を促進します。

- ① ユニバーサル就労支援室を設置し、事業所がユニバーサル就労として雇用する際の個別支援が必要なケースと、職場全体の環境整備の2つの側面から、各職場におけるユニバーサル就労の推進を支援します。また、すべての職員にとってより働きやすい職場をつくるための制度等の改善に取り組みます。
- ② 生活クラブ千葉グループにおけるユニバーサル就労促進と社会への発信、提案をめざして、ユニバーサル就労システム作りの第2期ワークショップを開始します。
- ③ JFSA(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)と連携して、パキスタンのスラムの子どもたちの就業を応援します。昨年度には、業務用エプロンを購入し、試用してみました。使用アンケートをもとに品質の改善を図り、継続的な利用をめざします。

働きたい気持ちがあっても個々が抱える様々な理由で働きにくい状態にある人がいます。たとえば、知的・身体・精神障害等の障がいがある人、就労ブランクがある人、母子・父子家庭の人、家族介護中の人、長時間働けない人、ホームレスの人など。

「ユニバーサル就労」はこのような人たちが必要な支援を得ながら就労するためのシステムです。

ユニバーサル就労に取り組むことは、職場をより働きやすいものに変えていく、良い機会であるとも考えています。

## 6 新規事業

### ① 生活クラブ園生くらしと福祉の拠点(仮称)

- UR都市機構の公募に応募し、千葉市稲毛区の園生団地内に生活クラブ4団体(社会福祉法人生活クラブ、生活クラブ生協、(株)生活サポートクラブ、VAIC コミュニティケア研究所)が共同で生活クラブ園生くらしと福祉の拠点(仮称)を建設予定です。2011年夏オープンをめざします。
- 社会福祉法人生活クラブは、デイサービス、ショートステイ、高齢者専用賃貸住宅、児童デイサービス、診療所、訪問看護ステーションを新設するとともに、美浜区稲毛海岸の千葉介護ステーションすくらむ(居宅介護支援事業及び訪問介護事業)を分割、移転します。また、生活クラブ生協はデポー(小さなお店)、(株)生活サポートクラブは本社を移転し福祉用具のショールームを設置し、(NPO)VAIC コミュニティケア研究所も活動拠点を設置します。さらに地域に開かれた交流スペースも設ける予定です。

## ② さくら風の村隣地

児童デイサービス「あかとんぼ」(土浮)は古い民家を利用していますが、老朽化が進んでいるため、早期の移転が必要です。また、さくら風の村は使い勝手の改善が必要で、事務所機能も限界に近づいています。そこで、さくら風の村隣地(第4駐車場の一部)と現在のさくら風の村で、現場の声を反映させて事業の再編を検討します。

## ③ その他

上記以外の新規事業関連では、印旛学童クラブあかとんぼ飯野の開設、デイあいの手再生プロジェクト、風の村の増床、あいネット場所活用プロジェクト等の継続検討課題があります。新規事業プロジェクトは、現場からの提案をうけ、随時設置を検討します。また相談事業での緊急避難的な少額貸付制度の創設を目指します。

# 7 第2次中期計画を策定します。

第1次中期計画は2008～2010年度の3カ年計画として策定しました。2次中期計画は、2011～2013年度の3年計画で策定します。各職場から選抜したメンバーに加えて、生活クラブ千葉グループ団体からの参加も得てプロジェクトチームを編成し、社会福祉法人生活クラブの中期的な方向性を決めます。

# 8 生活クラブ千葉グループの総合力で地域社会に貢献します。

① 今年度は、共通の課題として多くの項目で生活クラブ千葉グループが連携して取り組みます。

〈これまで挙げてきた中で、生活クラブ千葉グループが連携して取り組むもの〉

- 2-④ 「生活クラブ」のブランディング
- 4-② 生活クラブ版地域福祉活動計画
- 4-③ 認知症講座
- 5-② ユニバーサル就労システム作りワークショップ
- 6-① 生活クラブ園生くらしと福祉の拠点(仮称)プロジェクト
- 6-③ あいネット場所活用プロジェクト
- 7 第2次中期計画

また、グループ団体がそれぞれ取り組む福祉関連の方針を一望できるような、「生活クラブ千葉グループ福祉活動方針一覧」(仮称)を作成します。

- ② 生活クラブ生協が推進する「市民の意思ある基金による市民事業の創設の検討」に協力し、「地域元気プロジェクト」へ引き続き参加し、①立上げ支援等の市民起業への融資、②多重債務者への生活再生貸付の2つのファンドを検討します。
- ③ 生活クラブ連合会は、介護保険制度の改定を射程に6月に国へ意見書を提出する予定です。意見書提出に積極的に関わり、制度改定への提言や社会的に意見表明を行う活動を、時機を逸しないようタイムリーに行います。

# \*\* 2010年度当初予算 \*\*

2010年度は事業活動収入を23億9千4百万円、事業活動支出を22億8千8百万円、經常収支差額9千万円で予算編成しました。最終的な当期活動収支差額は8千6百万円となります。また、2009年度の収支差額の一部を使い、地域福祉支援積立金として4千万円の積立を計画します。

予算の大きな特徴は、風の村の増床（特養30床・ショート10床、2011年5月開設予定）建設や（仮称）生活クラブ園生くらしと福祉の拠点施設（大部分は5月補正予算予定、2011年夏開設予定）の大型施設建設を計画します。その他に引き続き、職員の処遇改善及び研修の充実、基幹システム入替や風の村の大型修繕等を予定します。

## I 主な経営数値

項目	数値	09 予測比
訪問介護事業のケア時間	217,731 時間	108.4%
高齢者デイサービス利用回数	24,907 回	105.0%
居宅支援プラン数	15,855 件	105.6%
短期入所事業の受入れ件数	8,473 件	97.5%

## II 事業別収入予算

単位：千円

区分	収入額	区分	収入額
ホームヘルプ事業	774,962	小規模多機能	69,214
特別養護老人ホーム	267,526	訪問看護	43,576
デイサービス事業	246,639	地域包括	39,679
老人ホーム・高専貸付住宅事業	221,791	相談事業	29,007
保育園	209,397	本部	5,084
居宅介護支援事業	196,246	ヘルパー養成	2,400
ショートステイ事業	156,151	賃貸事業	1,900
障害者（児）事業	130,574	合計	2,394,152

## III 資金計画

単位：千円

1. 經常活動資金収支差額	143,222
2. 施設整備補助金収入	122,400
3. 施設整備等支出計	
①風の村増床建築費	474,400
②風の村増床備品購入費	25,000
③生活クラブ園生くらしと福祉の拠点(仮称)賃貸敷金	10,250
④基幹システム関係	25,333
⑤風の村保育園駐車場整備費	1,785
⑥わらしこ保育園施設整備費	1,200
⑦その他	570
小計	538,538
4. 財務収入計	407,263
5. 財務支出計	
①設備資金借入金償還金	
・本部	21,341
・さくら風の村	17,263
・風の村	12,800
・風の村保育園	4,687
・わらしこ保育園	2,060
小計	58,151
②修繕積立金支出	
・わらしこ保育園	3,000
・風の村	5,000
・風の村保育園	3,000
小計	11,000
③地域福祉支援積立金	40,000
6. 予備費	23,000
7. 当期資金収支差額合計 (1+2-3+4-5+6)	2,197
前期末支払資金残高	316,896
当期末支払資金残高	319,093

## IV 当期事業活動収支予算

単位：千円

勘定科目		金額	09 予算比	
事業活動収支	収入	介護保険収入	1,551,547	106.9
		自立支援費等収入	250,706	118.9
		療養費等収入	14,193	112.8
		運営費収入	147,034	110.6
		私的契約利用料収入	5,010	83.0
		入居者の生活援助住宅収入	192,446	117.0
		入居者の生活援助収入	29,105	200.5
		受託事業収入	490	88.6
		ヘルパー講座事業収入	2,400	168.8
		經常経費補助金収入	148,950	170.3
		寄附金収入	4,050	108.1
		雑収入	5,076	105.1
		職員等給食費収入	6,444	97.2
		借入金元金償還補助金収入	3,250	100.0
		国庫補助金等特別積立金取崩額	32,498	100.0
		事業活動収入計 (1)	2,394,152	112.2
事業活動収支	支出	人件費支出	1,696,791	108.8
		事務費支出	324,396	122.6
		事業費支出	178,767	110.5
		減価償却費	82,969	102.7
		徴収不能額		
		引当金繰入	5,824	206.2
		事業活動支出計 (2)	2,288,749	110.6
事業活動収支差額 (3) = (1) - (2)		105,402	163.5	
事業活動外収支	収入	事業活動外収入計 (4)	14,041	34.1
	支出	事業活動外支出計 (5)	29,267	51.4
	事業活動外収支差額 (6) = (4) - (5)		△15,225	96.5
經常収支 (7) = (3) + (6)		90,176	185.2	
特別収支	収入	特別収入計 (8)	122,400	2,297.3
	支出	特別支出計 (9)	125,650	1,209.8
	特別収支差額 (10) = (8) - (9)		△3,250	64.3
繰越活動収支	当期活動収支差額 (11) = (7) + (10)		86,926	199.2
	前期繰越活動収支差額 (12)		254,358	131.4
	当期末繰越活動収支差額 (13) = (11) + (12)		341,285	143.9
	基本金取崩額 (14)			
	基本金繰入額 (15)			
	積立金取崩額 (16)		38,957	-
	積立金積立額 (17)		51,000	217.0
次期繰越活動収支差額 (18) = (13) + (14) - (15) + (16) - (17)		329,242	126.3	